

有形無形の文化を次世代に

そして、生業への発展へ！

一般社団法人
三國會所

代表理事

大和 久米登



1. 坂井市の概要

坂井市は、福井県嶺北地方の北部に位置し、平成 18 年 3 月に三国町・丸岡町・春江町・坂井町の 4 つの町が合併して誕生しました。東西約 32km におよび、東は雄大な山々、西は国天然記念物・名勝「東尋坊」に代表される壮大な越前海岸に面し、中部には福井県随一の穀倉地帯である肥沃な坂井平野が広がる自然豊かな地勢です。人口は、90,280 人(平成 27 年国勢調査)と県内 2 番目の規模であり、東洋経済新報社が毎年公表する「住みよさランキング」では、6 年連続トップ 10 を記録しています。



国天然記念物・名勝「東尋坊」

産業では、「越前織」と称する細幅織物や浴衣帯で全国 1 位のシェアを占める等、伝統的な繊維産業が盛んです。また、県内有数の米どころであり、越前がにや甘えび等海の幸も豊富で、日本最古の現存する天守「丸岡城」を有する等、食・歴史資源にも恵まれています。これらの多様な地域資源を活用し、合併した 4 つの地区が各々の特色あるまちづくりを展開しています。

2. 活動開始の背景・経緯

一般社団法人三國會所の活動する三国湊は、福井県一の大河「九頭竜川」の河口に位置し、古くは室町時代に成立した海洋法規集「廻船式目」において、三津七湊に数えられる全国有数の大湊でした。様々な大商人の台頭や三国湊独自の建築様式「かぐら建て」のまちなみの形成等、海運のまちとして商人文化が花開いていきましたが、明治期の鉄道敷設や

道路網の発達による海運業の衰退によりその時間を止めることとなります。当時の繁栄の軌跡は、現存するかぐら建てのまちなみや 250 年の伝統ある「三国節」や「三国祭り」から感じることができます。



越前三国湊風景之図 (繁栄の様子)

活動のきっかけは、平成 6 年に三国湊に立地する県内最古のコンクリート建造物「旧森田銀行本店」の解体が計画された際、地域住民主導による保存活動が起こったことに端を発します。その後、人口減少により急激に失われていく有形無形の文化を次世代へと継承していくため、そして、その活動や成果が生業へと発展することでまちの再生に繋げようと平成 12 年に当団体の前身である「三国歴史を活かすまちづくり推進協議会」を結成しました。そして、平成 24 年に三国湊の「旧森田銀行本店」、「旧岸名家」、「三国湊町家館」という 3 つの施設の指定管理者を受けけるにあたり「一般社団法人三國會所」として法人化して以降、湊町をこれからは残してゆくために様々な文化的・観光的事業を展開し、現在に至ります。

3. 観光による活力の創出

観光的事業では、福井県最大の観光地として年間約 140 万人の入込客数を誇る東尋坊と三国湊を繋ぎ、誘客を図り回遊を促す事業として「東尋坊～三国湊クルーズとレンタサイクル」の運営に取り組んでいます。

これまで、各々が点として存在していた観光地が陸路と海路の 2 つの線で結ばれることが狙いであり、特に日本海の夕日を眺めながらクルーズする「サンセットクルーズ」が若年層やファミリー層を中心に好評を得ています。



東尋坊～三国湊クルーズとレンタサイクル

また、湊町が古から蓄積してきた歴史・文化を地域資源として、「まちあるき」を促進するためボランティアガイドによるまちなか案内にも取り組んでいます。その他にも、次世代を担う子供達に向け、日頃馴染みの薄い歴史や古いまちなみに触れ合ってもらうため「三国湊トレジャーハント」等を継続して行っており、一過性で終わることのないまちづくりを心掛けています。

4. 無形の文化の継承

三国湊における無形の文化とは、まちが成立して以来、育んできた歴史であり、海運により発展した足跡や栄華を極めた商人文化の中で生まれた祭事・芸能・文学等、そして数多の才子を惹きつけた風致です。これらは、まちの誇りであり、次世代に継承してゆくため保存振興していくことが必要です。この様な目的の下、250 年の伝統ある盆踊り唄「三国節」を流し踊りにアレンジし、帯の幅ほどのまちの中を踊り流す「三国湊帯のまち流し」を創設しました。平成 19 年に試行的に実施し、平成 21 年より本格的に開催して以来、年々参加者や参加団体が増加しており、地元の子供からお年寄りまで、

さらには市外および県外の団体が参加する等活動の輪が広がっています。平成28年度の参加者数は、19団体延べ520人を数え、古の湊町が醸成してきた文化の保存や知名度向上に大きく寄与しています。また、フォトコンテストを同時開催することで、多くのカメラマンが来場し、対外的な露出にも貢献しています。

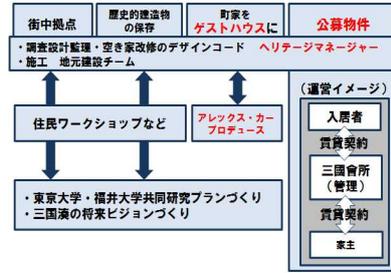


まちなかを踊り流す「三国湊帯のまち流し」

その他の文化的な事業としては、三国湊の文学の足跡を辿るまちなか文学館「三国湊詩歌文学館碑」の設置や北陸三大祭り「三国祭り」の装具支援等を行っています。

5. 有形の文化の利活用

無形の文化に対し、有形の文化とは現存する伝統的なまちなみや町家そのものです。三国湊は、市内でも人口減少が進む地域であり、その影響により伝統的な町家が急激に失われていくという憂き目を抱えています。その対処のため、最初の取り組みとして福井県の補助金を活用して古民家をリノベーションし、情報発信拠点「三国湊座」とジェラート店「カルナ」の2件を改修しました。その後、1件の改修を行い、平成25年度より「三国湊町家プロジェクト」と称し、3ヶ年計画で空き家となった町家をリノベーションするプロジェクトを立ち上げました。三國會所を中心に、地域住民はもとより大学やヘリテージマネージャーの資格を持つ建築士、日本各地で先進的な古民家改修に取り組んでいるNPO法人籠庵トラスト、坂井市等、多様な団体により「三国湊賑わいづくり推進委員会」を組織し、連携した活動を実施しました。改修後の町家には、店子を募集し、界隈の賑わい創出に努めるとともに、家賃収入を得ることで次の改修へと繋げる持続的な活動を行うシステムを構築しました。



三国湊町家プロジェクトの概要図

当プロジェクトでは6件の空き家を改修して、ゲストハウス「詰所三國」、まちあるきの拠点となるミニ資料館「マチノクラ」、アメリカ雑貨「アメリカン・スラット」、フレンチデリバリー「ハーフムーン・ベイ」等を整備しました。国の登録有形文化財である「旧森田銀行本店」、「旧岸名家」と一体で「三国湊レトロ」と題して新たな観光モデルを構築し、これまでの観光資源に新たな魅力を加え、北前船の寄港地として栄えた歴史を前面に出すことで、他の地域との差別化を図りました。



リノベーションしたゲストハウス「詰所三國」 6. 湊町の誇りを次世代に

当団体が活動を開始して以降、取り組みが多岐にわたることで、住民が自分たちの住むまちの価値を再認識し、地域への誇りや愛着をもつ上で、大きな効果をもたらしています。また、住民に対して活動内容やまちの課題である「空き家」等の研究成果についてフォーラムを開催し、定期的に報告することで危機意識の共有に努めてきた結果、空き家の提供や利活用相談が着実に増加しています。



三国湊まちづくりフォーラムの開催

さらには、空き家のリノベーションを通して移住してきた経営者による集まり「マチノミセ」が自発的に結成され、既存の店舗や団体が連携して、毎月第3日曜日を「レトロの日」と定め、和服の着用を促す取り組みや割引手形を発行し誘客を図る取り組みが行われる等、地域ぐるみでまちを盛り上げる機運の醸成に繋がっています。



毎月第3日曜日は「レトロの日」

「三国湊町家プロジェクト」では、様々な業種の店舗を誘致し、賑わい創出に取り組んだ結果、海外を含め6名が三国に移住、観光客数も前年の64,000人から81,000人へと約17,000人増加し、プロジェクトに賛同した新規店舗が2件開業する等、目に見える広がりが見られています。

7. これからの三国湊

今までの三國會所の活動では、目に見える成果がある一方、町家が失われる時代の速度に追いつくことができず、歯痒い想いを抱いています。現在は、創業100年を超える老舗の集まり「越前三國あきない処」と「マチノミセ」とを繋ぎ、さらなる連携を図る取り組みを進めています。単独での活動が頭打ちとなることが予想される中、多様な組織との連携が現状を打破する鍵と捉えています。

三國會所はこれからも、三国湊の誇りを次世代へと紡いでゆくため、重視してきた「稼ぐ力」をより一層、昇華させるとともに、幅広い連携力を発揮し生業への発展を目指していきます。



活動の原点は地域への「誇り」と「愛」